

ケア、人材、利益の循環を生む 三方よしの保険外サービス

特 集冒頭のアンケート調査（P.13-14）では、利用者への支援が介護保険だけでは不足している実態や、保険外サービスがケアマネジャー（以下、ケアマネ）のシャドーワーク解消の一助になる可能性があることが見えた。そこで、実際に沖縄県で居宅介護支援と保険外サービスを両立している大城五月さんと、新潟県で住宅型有料老人ホーム（以下、住宅型有料）をはじめとしたさまざまな介護事業を展開するとともに保険外サービスを運営している皆川敬さんに、介護事業者が保険外サービスを実施する可能性を語ってもらった。

介護保険サービスと並列で 介護保険外サービスを選ぶ転換期

——毎週日曜日の朝6時にオンラインで「寝起きでプライベートケア（介護保険外サービス）の可能性について語り合う会議（略称：寝起きでブラケア会議）」を開催する発起メンバーの大城五月さんとアドバイザーの皆川敬さんは、お二人とも介護事業者であり、介護保険外サービスの運営もされています。どのような事業を展開されていますか？

大城 居宅介護支援事業所が主力の事業で、介護保険外では、病院付き添い&送迎サービス（図1）と、仕事と介護の両立サポートを運営しています。また、今年度中に新たに、地域課題となっている身寄りがいない人等の緊急連絡先の確保や緊急時のサポートを、地域の民間企業や行政と連携し、システム化して提供する事業をスタートさせる予定です。誰かが無理をするのではなく、今あるものと新しくできる小さな何か繋がることで、地域住民の生活が保たれ、「馴染みの地域でいつまでも」という地域包括ケアが実



取材協力▶

大城五月さん

株式会社 hareruya 代表取締役、おきなわ仕事と介護両立サポート協同組合 代表理事
主任介護支援専門員、産業ケアマネ1級、
ワークサポートケアマネジャー



皆川 敬さん

サニーウインググループ代表、介護事業者
連盟新潟県支部事務局長、新潟県プロティアン・キャリア協会代表理事
経営学修士

現できると考えています。

皆川 私は介護事業を中心にした8つの法人から成るグループ企業を運営しています。住宅型有料から事業展開を始め、サービス付き高齢者住宅、特養、小規模多機能居宅支援、訪問介護、通所介護、居宅介護支援事業所などの介護事業所や、訪問看護やクリニック等の医療系機関、介護保険外では、ご用聞きサービス（図2）や介護タクシー、移動販売等を運営しています。保険内・外に関わらずその方の経済状況やニーズに合わせて複合的にワンストップで切れ目ない支援ができるようにしています。

——利用者の状況に応じて希望する生活が続けられるよう、地域のプラットフォームを作っているのですね。どのような経緯で保険外サービスを始めたのでしょうか？

大城 私がケアマネとして担当するなかで、発熱した身寄りのない利用者さんが苦しんでいるのを見て、誰かが病院に連れて行くか、支援者たちがその方の横で話し合いをしている場面があったんですね。私はそれに強い違和感を感じたんです。この場合、ケアマネがシャドーワークとして病院に連れて行くことがあると思うのですが、それだと、その場は良くても、根本的な解決にはならないんですよね。持続的なケアという視点で考えると、本人の生活をサポートするというのは、「私がいなくても、その人の生活が成り立つ」ことだと思うんです。ケアマネとしての私の困りごとは他のケアマネにも困りごと。この困りごとは、利用者さんやご家族が困っているからだと思い、解決策の1つを作ろうと、2018年に介護保険外サービスとして病院付添いサービスを始めました。

皆川 私が介護事業を始めた住宅型有料では、自費サービスの時間を柔軟に設定しています。「何分稼動したらいい